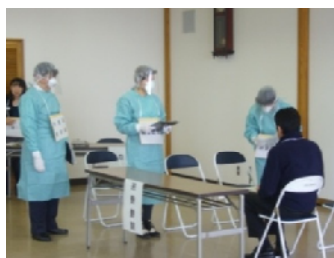




新型インフルエンザの対策訓練を実施しました！

1月21日（火）に新型インフルエンザの対策訓練を塩釜保健所で実施しました。今回の訓練は、内閣官房主催の同訓練と連携したもので、安倍首相は「新型インフルエンザの発生は危機管理上、重大な課題だ。政府をあげて対策に取り組むことが必要」と強調しました。当日は、関係省庁や34都道府県等が参加。このうち実働訓練を実施したのは、宮城県を含め1庁9府県でした。塩釜保健所は県内で唯一、実働訓練を行いました。



海外で新型インフルエンザが発生し、発生国からの帰国者が飛行機内で発症したと想定。保健所は関係者との患者情報の伝達と疫学調査や有症者の移送、検査センターへの検体移送等の実働訓練を行いました。

通常インフルエンザは通常の季節性インフルエンザと異なり、免疫を持つ人がほとんどいないため、一度発生するとパンデミック（世界的大流行）を起こす恐れがあります。今後の新型インフルエンザウイルスの発生に備え、保健所と関係機関の役割について改めて認識する機会となりました。平常時から関係機関と連携し、対策強化を図りたいと考えています。



新型インフルエンザは通常インフルエンザと異なり、免疫を持つ人がほとんどいないため、一度発生するとパンデミック（世界的大流行）を起こす恐れがあります。今後の新型インフルエンザウイルスの発生に備え、保健所と関係機関の役割について改めて認識する機会となりました。平常時から関係機関と連携し、対策強化を図りたいと考えています。

今後、保健所と関係機関の役割について改めて認識する機会となりました。平常時から関係機関と連携し、対策強化を図りたいと考えています。

「被災者心のケア研修会」 支援者が学ぶ

12月18日（水）、兵庫県心のケアセンター加藤寛センター長を講師に招き、市町村被災者生活支援担当者約40名を対象に、研修会を開催しました。

加藤氏は、阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、精神科医師として、「被災者は『PTSD』や『悲嘆と抑うつ』、『慢性的な心身の



変調」等様々な心理的苦悩に直面しているが、基本的にはすべてが『正常な反応』であり、回復は可能である。」「①安全・安心できる環境、②生活再建、③コミュニティの再建、④役割の回復、の4つが心理的回復の礎になる。」と述べました。中長期的なところのケアの基本的戦略の一つとして、「住民が心のケアを受け入れやすくする工夫」が必要で、地域のサロンや健康教室等の場で、心のケアについてのプログラムを入れ込むなど、住民が抵抗感なく集まり、相談できる機会を作ることが大切であることを学びました。

とくべつ遊び場を開催しました！

12月22日（日）に岩沼市の応急仮設住宅内の東集会所で、「とくべつあそび場」を開催しました。

「パックとんぼを作ってとぼそう」、「赤いお鼻のトナカイさんをつくろう」、「木の実でつくるクリスマス」



「箕笹さんコーナー!!（クリスマスリースや木工）」などのクラフトコーナーで楽しみ、「お茶っこサロン」で和みました。

この日は、普段の「里の杜あそび場」に来られないお父さん・お母さんや、お孫さんと一緒に、中には女性2人で参加してくれた大人の方々もいました。作品づくりに夢中になったのは、子どもたちより、むしろ大人の方でした。



作品づくりに夢中になったのは、子どもたちより、むしろ大人の方でした。



塩竈市の災害公営住宅を 見学してきました。

1月31日（金）に塩竈市で初めてとなる、伊保石地区に建設を進めていた災害公営住宅が完成するため、入居開始日の前日となる1月30日（木）に当所職員が見学して来ました。

伊保石地区の災害公営住宅はすべて一戸建てで全31戸（内訳：2DK、3DKの平屋が計11戸、2階建てが20戸）0.9ヘクタールに整備されており、各戸の平均敷地面積は約195平方メートルとなっています。



いずれも木造で、県産材を50%使用した、屋根の重なり合う美しい景観の住宅群は、周辺と調和する街並みをつくり、災害公営住宅の整備と合わせ周辺道路等を整備したことで、地域住民の交通利便性の向上が図られていました。

また、高齢者や身体の不自由な方の日常生活の安全性の確保に対しては、全31戸において玄関やトイレ、浴室には手すりが設置されており、うち10戸には玄関アプローチにスロープが設置されているなど、車いすや手押し車での移動がしやすいバリアフリーに配慮した住環境となっていました。

塩竈市内では2015年度までに、伊保石地区を含む計9地区で420世帯の災害公営住宅が整備される予定です。

メタボリックシンドローム 対策研修会を開催しました！

メタボ該当者・予備軍割合が全国2位の宮城県。なかでも黒川地区は男女ともこの割合が県平均値より高く、メタボ対策が課題となっています。そこで、まず「食生活を見直そう！」ということで、1月17日（金）



に（株）タニタから講師を招き、仙台保健福祉事務所黒川支所で「タニタの社員食堂健康セミナー」と題して研修会を開催しました。

当日は地区の栄養士・保健師・看護師等を中心に、ほぼ定員の59名が参加し、タニタ食堂レシピ（カロリー少なめでも食べ応えのあるメニュー）を作る上でのコツや、減量を継続させるための指導ポイントなどについて話をいただきました。

専門職であれば既に知っている情報もあったものの、網羅的にわかりやすく紹介され、参加者からは今後の指導に役立てたい、満足した等の感想も多く寄



せられ、有意義な研修会となりました。

2月17日（月）には子どもの肥満対策という観点で、大和町まほろばホールで黒川地区の保護者、小中学校や幼稚園等の職員を対象にした同セミナーも開催され、こちらも多くの方に参加いただきました。

食品衛生功労者・食品衛生優良施設の 保健所長表彰が行われました！

1月22日（水）、食品衛生関係者の平成25年度塩釜保健所長表彰式が多賀城市内において行われ、食品衛生功労者として5名、食品衛生優良施設として3施設が表彰されました。受賞者のみなさまには、謹んでお祝い申し上げますとともに、今後の更なるご活躍を期待致します。



自死対策講演会を開催しました！

東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸部の住民の心の健康を保つことを目的として、1月17日（金）に塩釜市公民館において講演会を開催しました。今回は塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町の2市3町の民生委員・児童委員を対象とし、「被災者の心の健康を保つために大切なこと～地域が元気になる方法～」をテーマに、宮城県精神保健福祉センターの精神科医師小原聡子先生からご講演をいただきました。



地域の身近な相談相手である民生委員・児童委員等、合計114名の方々にご参加いただき、震災後の心の変化と“心のケア”について、体の健康はこころの健康であること、セルフケアが重要であることを学んでいただくことができました。

発行・問合せ先

宮城県仙台保健福祉事務所HP委員会

TEL：022-363-5502

FAX：022-362-6161

E mail：sdhwfzpg@pref.miyagi.jp